

令和6年度北陸圏広域地方計画有識者懇談会 議事概要

日時：令和6年6月10(月) 13:30～15:30

場所：金沢商工会議所会館 2階大会議室（オンライン併用）

1. 開会

2. 挨拶

〔北陸地方整備局長〕

- ・この有識者懇談会は、第3次となる北陸圏広域地方計画策定に向けて、有識者の方々から専門的見地に立ったご意見をいただくことを目的として設置したものである。令和4年8月に第1回有識者懇談会を開催し、計4回の有識者懇談会を行った。本来は、第3次北陸圏広域地方計画（素案）について、本年1月に有識者懇談会でお諮りする予定だったが、令和6年能登半島地震の影響で延期をした。
- ・今回は、中間とりまとめの公表に向けて、能登半島地震を踏まえた計画体系の見直しや、若者の意見の反映等についてご議論いただき、第3次北陸圏広域地方計画（素案）の策定をしていきたいと思っているため、皆様には忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げる。

3. 議事

〔座長〕

- ・能登半島地震からの復興には、長い道のりがかかるように感じられたが、5か月経過して、石川県の創造的復興プランの発表があり、1日も早く元の能登、それ以上に活気のある能登になってほしい。
- ・地震を受けて、中間とりまとめの案も防災的観点が入った形で書き直されているため、その内容の確認をしていただき、皆様から忌憚のないご意見をいただきたい。

（１）これまでの検討経緯と今後の策定スケジュールについて

〔事務局〕

- ・資料1 説明

〔座長〕

- ・ただいまの説明について、意見、質問等あればお受けする。

（特になし）

（２）新たな北陸圏広域地方計画中間とりまとめ（素案）について

〔事務局〕

- ・資料2 説明

[座長]

- ・ただいまの説明について、意見、質問等あればお受けするが、その前に本日欠席の委員からご意見が提出されているため、事務局から説明を願いたい。

[事務局]

- ・1点目は広域地方計画の全体に対して、住民に対するメッセージ性を高めるべきという点があった。
- ・2点目として、個別に4つの意見を頂いている。1つ目は、プロジェクト2、3は一本化してよいのではないかと、またデジタルの活用について、すべてのプロジェクトに関連することから、横ぐし的に整理するのがよいのではないかとという提案である。また、プロジェクト9について、その内容から表現を「地域づくり」から「観光地域づくり」に変更したほうがよいのではないかとという提案があった。
- ・2つ目について、プロジェクト3の施策群①において、記述の内容に即して考えれば、「高次都市機能集積拠点の形成」という表現よりは、「都市関連圏を通じた高次都市機能の充実」としたほうが適切ではないかというご意見をいただいた。また、表現に関しては、高岡、小松等を加えるべきではないかという意見を頂いた。
- ・3つ目について、プロジェクト10において、観光のみならず各種交流のための施策群となっていることから、「交流ポテンシャルの最大限の発揮」としてはいかがかという意見を頂いた。
- ・4つ目について、プロジェクト11において、関係人口の拡大にむけて他のプロジェクトの施策に記載している首都圏との大学連携や二地域居住等の内容について再掲してはどうかという提案と、ふるさと納税など離れていても関係性を持っている施策もリストアップできるのではないかとという提案も頂戴している。

[座長]

- ・それでは意見交換に入る。

[委員]

- ・第2部の第2章「将来像」について、事前説明の際は「まち・ひと・くらしが輝く」という言葉が入っていたかと思うが、特にこれに反対するわけではなく、元に戻すということでよい。
- ・横ぐし的に施策等を確認することが必要である。能登地域の方で富山県、福井県、石川県の直接被災していない地域に避難している方のところにも少し着眼してみても良い。

[委員]

- ・北陸の人口減少を食い止めるためには、Uターン促進は非常に重要だが、高齢者が安心して生活していけるという視点もほしい。北陸には食べるもの、寝る場所、温かい地域があり、お金の心配なく最後まで安心できるというメッセージが入るとよい。

[委員]

- ・グループ補助金が様々な分野に適用され、いずれは企業支援という形で動くと予想される。企業支援については、早くプラットフォームを整備して支援の強化を図り、若者も含めて結集できるよう

にしておくことが大事ではないか。

- ・広域地方計画の議論として、専ら東京（大都市圏）とどう結びつけるかといった内容ばかりが多く感じられたため、北陸圏内のつながりを自覚、深掘りしていくとよい。

[委員]

- ・第1部の第1章「北陸圏の現状」について、人口減少・少子高齢化の説明の中の、「特に女性の流出に繋がっているものと考えられる」という表現に関して、消滅可能性自治体は、20代、30代の女性の流出が算出根拠であるが、それを見て一喜一憂するのではなく、本質的な原因がどこにあるのかということを、計画で大きく位置付けてもよいのではないか。
- ・災害リスクに関する啓発の重要性の中で、防災教育や防災学習等の言葉を入れてはどうか。

[委員]

- ・第4部「主要な施策」について、復旧・復興に関して「覚悟をもって全力で取り組む」という言葉が多数出てくるが、抽象的な表現であるため修正が必要ではないか。
- ・防災について、ソフト面に関する記載が加えられているので、この点はよいと思う。

[委員]

- ・プロジェクト1について、BCP策定は防災・減災に関するソフト面の強化において、一番具体化しやすいものと思っている。10年後には全ての企業がBCPを策定しているぐらいに、国から促していくという形を提言していただきたい。費用もさほど要さず、ハード面の整備に比較して即効性も期待できる。

[委員]

- ・能登半島地震を受け、北陸広域地方計画は国民主体の対策を進める好機である。
- ・多大な債務の中、インフラ強化には限界があり、国民主体の防災を進めるしかない。家屋の密集する低平地の甚大な被害をふまえると、土地利用で災害被害を減らすか、耐震化などにより被害を減らすかのどちらかでしかなく、上手くバランスをとるしかない。その点を先進的に取り組んだ地域が形成できれば、北陸圏にとってプラスになるのではないか。

[委員]

- ・今回、能登半島地震で上下水道が大きな被害を受けた。上下水道は衛生環境の保持にとって重要な社会基盤であるため、復旧の遅れが非常に気がかりであった。計画では記載が分散されているが、記載を分散させず、上下水道を一体で記載していただきたい。
- ・また、復旧や耐震化だけでなく、地域に応じたシステムの再構築も含めて考えていくことが、能登だけでなく北陸圏全体の問題だと思うため、その点が盛り込まれたらよい。

[委員]

- ・メガソーラーは景観の問題や土砂崩れの問題などがあるが、その問題に北陸圏では何に取り組めるかを考えたとき、北陸圏における再生可能エネルギー導入率が低い原因は、雪ではないかと考えられる。最近は雪に対応できるような発電もあり有効である。

- ・再生可能エネルギーはどこでも発電できる能力を持っており、蓄電池とセットの使い方もできるため、レジリエンス強化にも繋がる再生可能エネルギー導入に関する記載があってもよい。

[委員]

- ・氷見地区も液状化の被害があり、一部地域ではコミュニティ崩壊となっている。農山漁村のコミュニティをどう再建していくかについて気になる。それで問題となるのが社会的孤立である。社会的孤立をどう解消していくか、あるいはどう発見してケアしていくかという点が、社会として大事な部分であり、大学としてもコミュニティの再生において、何か出来ることはないかと考えている。
- ・現在居住している方に対して、ハード的な部分として地盤を強靱化できるかということにフォーカスを当ててほしい。北陸圏に限ったことではなく、全国にも液状化になりそうな場所はあるはずなので、先導的に記載できればよい。

[委員]

- ・第1部の第2章「北陸圏の課題」について、「コロナ禍がテレワークの普及の契機になった」ということが記載されているが、オフィス回帰の流れも大きく、デジタルとリアルの組み合わせという意味では、「対面コミュニケーションが濃密なものとしてできるようになる」といった記載にするとうい。
- ・プロジェクト2について、「女性同士で情報共有」ということが記載されているが、女性という表現を強調しすぎると若い女性の流出にも繋がりがかねないので、記載を見直すべきである。また男性や親世代の意識改革も必要である。
- ・本業の副業禁止規程によって地方の事業との関わりを断念する場合もあるため、家業の自営や法人の経営者として非常勤で参画できるような仕組みを地域内外に促すことで、地方の事業継続・事業承継が円滑に行われるきっかけになるのではないかな。

[委員]

- ・プロジェクト3について、「都市間のシームレスな繋がり」、「連携中枢都市」といった記載があるが、シームレスに接続された場合の価値をより高くするためには、それぞれの都市の多様性が高いほうがよい。
- ・プロジェクト6について、スタートアップエコシステムに関して記載されている内容は、主に圏域内の産学官の連携であるが、トップクラスの専門性というものが教育・育成において非常に有益である。大学や公的機関が窓口となって、大都市圏のVCや著名なアクセラレーターの活動家などを地域に呼び込むようなことが重要ではないかな。
- ・復興について、輪島などの伝統工芸の復興は、北陸にとって重要な課題である。国立工芸館の金沢への移転は、今後の伝統工芸・文化の復興にとって心強いと地元の方も言っていた。

[委員]

- ・第1部の第2章「北陸圏の課題」について、「農林水産業の魅力向上による産業の強化と担い手確保」とあるが、担い手確保が産業力強化の基盤であり、極めて重要な部分であると感じる。また、産業の強化と担い手確保が並列になっているが、最重要事項としては環境の強化のための担い手確保だと思うので、本腰を入れて着眼していただきたい。

- ・本計画を見た人が、自分が担い手側になろう、自分も力になれると、農業をしていない多くの人に、自分も何か関わってみようと思える内容にしてほしい。

[委員]

- ・プロジェクト6について、「スタートアップエコシステムの構築を目指す」という記載があり、「そのために人材育成をする」と記載されているが、人材育成をしてもスタートアップエコシステムは成立せず、地域の特徴的な課題がオープンにされているということが何よりも大事である。
- ・そのため、北陸圏の特徴的な課題を地域外にオープンにすること、また多言語でオープンにして、地域外から課題解決できる人材を集め、実証実験できる環境を整備することが、起業家を生み出すために大切なアクションになる。起業家の求めるフィールドには、課題があって、実証実験しやすいということが大事になってくると思うので、エコシステムの構築を目指すのであれば、その記載が必要である。

[委員]

- ・プロジェクト1について、「インフラの復旧促進と強靱化」という記載があるが、印象としては強靱化というより、しなやかさを求められていると感じたため、その表現を変えられたら良い。人口も減少する中、どれだけ投資できるかという問題もあるので、壊れてもすぐに直せることや、直せる人が地域に住んでいるという点が重要な要素である。
- ・能登の創造的復興プランについて、分散型エネルギーと、二拠点居住の話については新しく入っていると感じているが、今回の素案の中で読み取ることができなかったため、その要素を入れてほしい。

[委員]

- ・石川県が復興プランを策定している中で、地域での対話が繰り返し広げられていると聞いた。その中から本計画に活かせる論点を間に合う限りで反映し、地域コミュニティの力が向上するためには何が必要なのか、もう少し現実的に記載できるとよい。

[委員]

- ・現在、脱炭素地域づくりのために、様々な計画を各自治体で実施しているが、第7次エネルギー基本計画などでは、新たな目標が組み込まれるのではないかと考えている。今後、新たな目標を掲げる必要があるかもしれない。
- ・プロジェクト4について、脱炭素地域づくりの関連で、交通に関する記載が見受けられない。コンパクトシティについて記載はあるが、車がないと不自由するのが北陸圏の生活スタイルである。高速交通については多く記載されているが、いかに隣町まで、あるいは病院やスーパーマーケットなどに移動するために、近距離の交通をどうするかという点が記載されていない。例えば朝日町のライドシェアのような、共助・公助による新しい交通システムに視点を向けてもよい。

[委員]

- ・シェアリングでは地域内は移動できるが、隣接する地域には移動できないなどの問題があるため、コミュニティ間におけるサービスの連携も考えていかなければならない。

- ・「道の駅」の防災拠点化や集いの場という概念があるが、「道の駅」にはコミュニティを再生させ、地域の活力を向上させる可能性があるので、今後、北陸圏としても「道の駅」の利活用について議論したほうがよい。

[委員]

- ・新規創業について、相当頑張らないと企業は長続きしない。新規創業企業と第2創業を目指す企業とのマッチングなど、北陸圏型の産業における仕組みづくりができるのではないかな。
- ・プロジェクト6で企業・事業のDXが記載されているが、老舗企業の特に技術を持っている企業への配慮を頂きたい。やる気のある創業50～100年前後の企業の中には、非常に面白い醸造の発酵技術を使った日本のバイオテクノロジーなどもあるので、北陸ならではの取組ができるのではないかな。

[委員]

- ・国土形成計画や広域地方計画は、省庁横断型にすると、ソフト施策が策定しやすい。北陸圏が全国に先駆けて、ハードだけではなく、様々なコミュニティや個人を繋げられるような組織を、国、県、市、産業界、市民団体で形成する方向に提案できたらよいのではないかな。

[座長]

- ・国土交通省が中心となってとりまとめる内容なので、先に目が行くところはハード面で、その後にソフト面となっているが、日本の社会では少子化や食糧安保への対応が重要である。
- ・他の省庁が担当する部分ではあるが、省庁横断で取り組んでいく内容の話である。そういう意味では、コミュニティをいかに維持していくかという点で、シティズンシップ教育が重要なキーワードである。
- ・まとめることは難しいと思うが、何らかの形で記載していただき、「国土交通省の内容ではないが、そこは重要である」という記載が大事だと感じている。是非、上手く記載していただきたい。

(3) 新たな計画に反映させる若者意見の聴取について

[事務局]

- ・資料3 説明

[座長]

- ・ただいまの説明について、意見、質問等あればお受けする。

[委員]

- ・途中で昼食を実施したらどうかと思っており、その間をアイスブレイクとすれば、もっとよい意見が集まるのではないかな。

[委員]

- ・テーマ1～3において今の北陸の現実を見て、参加者の忌憚ない意見を聞かせてもらうことと、併せて10年後の予想を聞かせてもらいたい。それを踏まえて理想を聞いて、理想と予想のギャップを

埋めていくためにはどうしたらよいかという議論の中で最終的に解答が見えてくるのではないか。

[委員]

- ・地元を担ってくれる中小企業や農業法人を営んでいる方にも話を聞くと気付きがあるのではないか。

[委員]

- ・120分でこのような重たいテーマをディスカッションすることは正直難しいのではないか。内容を事前に自分なりにまとめてきてもらう等の作業をすれば、短時間でも行いやすい。

[委員]

- ・カフェなど若者が日常的に過ごしている場所をあえて選び、リラックスしてもらい、いつも思っていることを出しやすくする環境づくりは大切である。
- ・若者が上手な言葉を紡げなくてもアウトプットできるような選択肢を用意しておく、若者の頭の中にあるこちらが期待している意見が出やすいのではないか。

[座長]

- ・若者意見の聴取について、いろいろご提案をいただいたので、事務局においては参考にして欲しい。
- ・私自身、北陸圏で生まれ育ち、自然が多く、山や海に恵まれ、大都市に比べれば楽しむことが出来る地域であると感じる。他の圏域と比べると大都市がないが、人口30～40万人ほどの中核都市が横に連なっており、しかも、新幹線が通ることによって接続型都市圏ともいえる。
- ・そういった良い地域であり、これまで安全だと思っていたが、今回大きな地震があつて、日本全国で安全な地域はないということを感じた。防災はハードにも限界があるので、そこをいかにソフトでカバーできるかがポイントだ。
- ・この計画については、今は10年先を見越した広域地方計画をまとめ上げるという段階であるため、ぜひ良いものにまとめていただけたらと思う。

[委員]

- ・省庁間連携も重要だが、一番地域のことを知っている市町村との連携は不可欠である。そことの連携も具体的に見えてくるようなプランになると良い。

4. その他

[事務局]

- ・本日の懇談会資料及び議事録の公開非公開について確認させていただく。
(資料3を除いたその他の資料、議事録は公開で、委員承認)

5. 閉会

[北陸信越運輸局次長]

- ・ 本日の懇談会を通して感じたことは、今回の計画策定に向けたご意見を頂戴したところではあるが、計画の策定のみならず、今日の社会経済情勢の変化の中で、国の行政、地方も含めた行政の在り方という幅広い論点において、示唆の多い貴重なお話を伺えた。
- ・ 今後であるが、本日お示ししたように、先ほどご議論いただきました若者の意見を取り入れるワークショップや他の圏域との連携の方策、震災復興計画等の計画を反映して、中間とりまとめ案について検討していき、今年の冬頃の中間とりまとめ公表に向けて検討するので、先生方には引き続きご指導ご協力をいただきたい。

－ 以 上 －